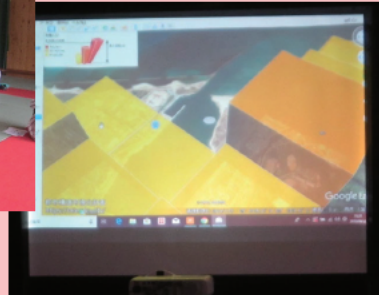


新しい出前講座の提案

～都市構造可視化ツールの活用～



江津市都市計画課

i-都市交流会議2020

1

1. 今までの出前講座

今までの出前講座

江津市都市計画課の職員が、都市計画という言葉の概念と江津市が目指す理想的なまちづくりの方向性についてPowerPointで説明するもの



文字やイラストで、概念的なものや制度を説明するのは難しい

若い世代が、まちの現状やこれからのまちづくりについて興味を持つ内容にするべき

メモを取る時間を確保する必要がある



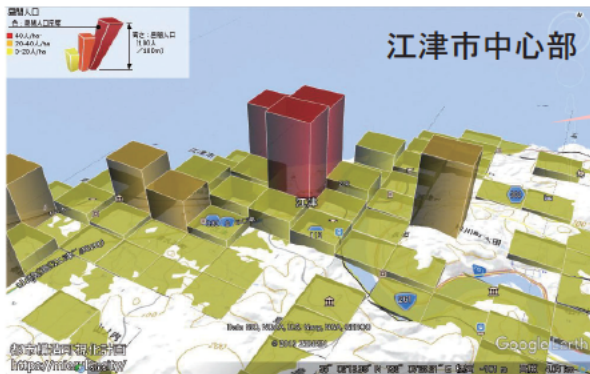
客観的な将来予測を可視化ツールで明示し、今後のまちのあり方や目指すべき将来像を考えるきっかけをつくる

i-都市交流会議2020

2

2. 関心を持たせるためにした工夫①

自分のまちを知る



どんな場所に人が集中しているのか考えてもらうために、江津市の昼間の人口をスクリーンに映しました。

学校や病院、商業施設や工場に人口が集中していることを理解してもらえたかな...
ちなみに比較対象のまちの希望を聞いたら、渋谷の次に原宿という意見が多かったです。

他のまちと比べる

昼間の渋谷と江津の人口を比較しました。可視化してみると差が歴然です。



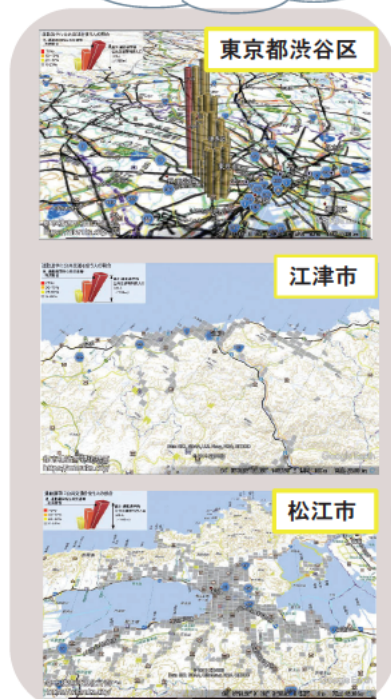
i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3

3. 関心を持たせるためにした工夫②

地域の特徴を考える



地域の公共交通の利用状況について考えてもらうために、渋谷、江津市、松江市（島根県の県庁所在地）の通勤・通学に公共交通を利用する人の割合を比較しました。

渋谷と比較することで、公共交通の利用者が少ないこと、松江と比較することで、公共交通網が充実していないことに気づいて欲しい。また、島根県全体が車に依存してきた車社会であるということにも気づいて欲しい。

i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

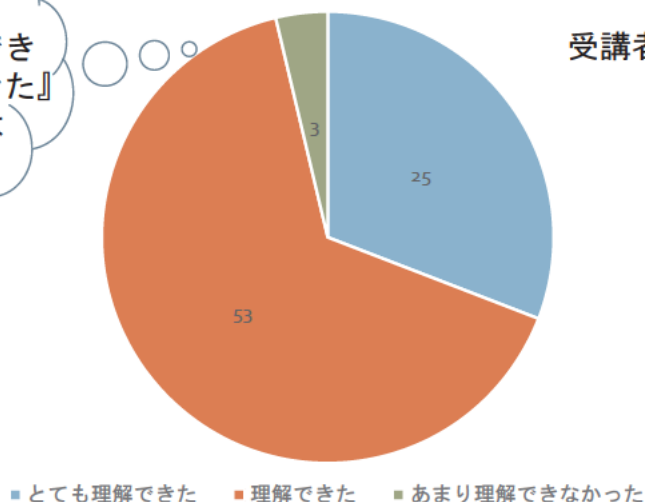
4

4.可視化ツールを活用して行った出前講座のアンケート

テーマ『江津市の都市計画とコンパクトなまちづくり』

出前講座を受講した生徒の理解度

『とても理解できた』『理解できた』と答えた割合は96.3%でした。



受講者数：81人
男：40人
女：41人

5.担当者の感想

可視化することで、よりわかりやすい説明になったと感じました。また、日本全国のデータを閲覧することができるのがいいところだと思います。

個人的には、注目がスクリーンに集まるので拙い説明でもそれっぽくなる気がしました。

職場のパソコンで気軽に使えないのが残念です。

利用できそうなデータが、人口の移り変わりや居住エリアの相関くらいかなと感じました。メッシュの大きさを選択できたらもっと使いやすくなると思います。

6.庁内での活用について

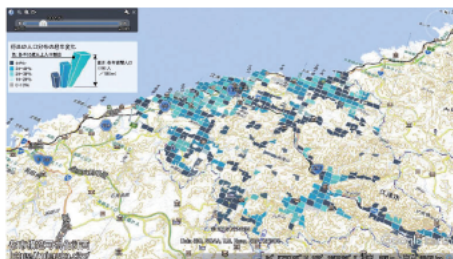


立地適正化計画の居住誘導区域内での将来の人口分布の経年変化をもとに、空き家が増えそうな場所を調査してみました。

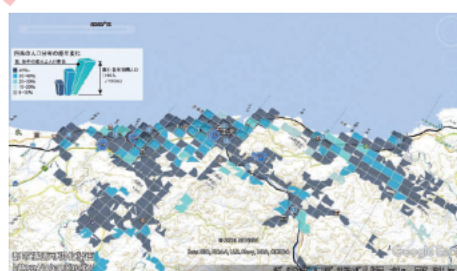
居住誘導区域内でも、高齢化が進み空き家の増加が見込まれます。

20年後

現在の江津市における65歳以上の人口の分布



20年後の江津市における65歳以上の人口の分布



青いエリアが増えている

人口が減っている？！

i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

7

地域名等

都市の紹介



i-都市交流会議2020

8